



「人づくり=島づくり」

④ 日本の大人は勉強しない?? (現状把握編)

【人生100年時代の学びのサイクル】

私が大学生だった2015年前後から、「人生100年時代」という言葉をよく聞くようになりました。ある海外の研究では、2007年に日本で生まれた子供の半数が107歳より長く生きると推計されています。日本が健康寿命世界一の長寿社会を迎え、「教育・仕事・引退」という3ステージの一直線の人生から、何度も学び直し、様々な仕事や活動をしながら豊かな人生を自分の力で切り開いている「マルチステージの人生」に変わってきています。一直線に進んでいくというよりは、「学ぶこと」と「学んだことを生かすこと」の両方をグルグルと回転させていくようなイメージで、「ライフシフト」と言われています。また、これだけ社会の変化と技術の進展が目まぐるしい時代ですので、そもそも学ばないと生き残っていけないという現実問題の方が大きいかもしれません。

【新しい言葉「アンラーン」】

最近「アンラーン」(Unlearn)という言葉も聞くようになりました。最初聞いた時は、「学ばない自由」みたいな意味なのかと思ったのですがそうではなく、「学びほぐし」を意味します。自分が既に身に付けた知識や成功体験などを一度意識的にリセットし、新しいことに対して柔軟になろうとするものです。

特に「成功体験」のリセットは、とても難しいかもしれません。私の高校球児時代を振り返ってみると、例えば200本の素振りを日々繰り返してヒットを打てるのは達成感があり嬉しいのですが、それよりも今の技術をフル活用し、自分のスイング角度や苦手なコースを分析しながら練習する50本の方が効果は高いはず(野球に詳しくない方は申し訳ありません)。また、打球は飛ばないけどバントは上手い、「つなぎの2番」を誇りに思っていた私ですが、実際は「1回ツーアウトランナー無し」を量産していました。今は統計学上、チーム1・2を争う強打者を2番に置くと点が入りやすいとされていますので、利島に「大谷グローブ」を届けてくださった大谷選手は、打順で2番を打つことが多いです。10年前の常識は今の非常識になり、また今の常識はきっと10年後には非常識になっているということを「理解する」ことが必要であり、「学ぶこと」、「学んだことを生かすこと」、「学びほぐしを行うこと」の3つのサイクルを回すことが重要なのだと思います。

【日本の大人は勉強しないという調査結果】

一方、3月に開催した「利島村教育フォーラム」において講師の庄子先生がお話されていましたが、職場以外での学習について、「特に何も行っていない」と回答する日本人は52.6%(パーソル総合研究所「グローバル就業実態・成長意識調査」2022年)とされています。これは調査した18の国・地域の中で突出して最下位でした。また、別の調査で「学習していない」と答えた方に、その理由を尋ねたところ「特に必要がないから」と答えた方が45.5%(内閣府「生涯学習に関する世論調査」2022年)だったようです。「特に学ぶ必要がない」という認識では上記の3つのサイクルが回っていきませんので、今後の社会を見据えた時に、誤った認識だと感じます。子供に「勉強しなさい」と言う前に、大人がまず背中を見せていく必要があります。

今の時代、自分にあつた学び方を分析し、学ぶ内容も自分なりにアレンジできるようになってきています。未だかつてない、「学び放題時代」の到来です。

次号では、少し具体例をご紹介します。考えています。



コラムの感想・意見はこちらから

